

チェンバロ * オルガン de 深掘り！音楽サロン

第1回

Matthias Weckmann

第1回 M.ヴェックマン(ca.1616-1674)

北ドイツオルガン楽派の中期を飾り、イタリアやフランスの音楽にも精通した多彩な鍵盤音楽家

宮崎
賀乃子

Orgel
プレアンプルム 第1旋法
「来たれ精霊、主なる神」(全3節)

徳田
佑子

Cembalo
トッカータ in e
「組曲」ロ短調

他

Cembalo

Orgel

2021年 9 月 25 日 (土)

松本記念音楽迎賓館 Aホール 東京都世田谷区岡本2-32-15

昼公演：14時開演 夕公演：16時30分開演 ※休憩なし60分程度
(両公演とも開演30分前に開場)

入場料：小中学生 1,000円 / 一般 3,000円 (限定 30席 全席自由)



松本記念音楽迎賓館 アクセス

問い合わせ/入場申し込み
CembalOrgel音楽サロン事務局
salon.cembalorgel@gmail.com



宮廷やサロンで愛されたチェンバロ×楽器の王様と称されるオルガン
二つの楽器の響きと共にバロック期の隠れた名作曲家を探る新シリーズ

全3回

～本シリーズにあたって～



写真：松本記念音楽迎賓館

17～18世紀初期の鍵盤音楽家の多くは宮廷や教会で、チェンバリストまたオルガニストとして活動をしていました。彼らの楽曲はジャンルに応じて、例えば舞曲はチェンバロやクラヴィコードを、またコラール編曲はオルガンを想定していたと考えられますが、それでも当時、これらの楽器はかなりのレパートリーを共有していました。特に手鍵盤のみで演奏する楽曲は、どちらの鍵盤楽器も使用することができました。

本シリーズは全3回にわたり、ドイツとその周辺地域のバロック時代を彩った音楽家5人をクローズアップし、毎回チェンバロとオルガンの両方で、彼らの鍵盤作品が織りなす豊かな世界を深掘りしていきます。

第1回は、17世紀半ばに活躍したマティアス・ヴェックマン Matthias Weckmannを取り上げます。北ドイツ様式によるオルガンのためのコラール編曲に加え、イタリアやフランスから影響を受けた作品を通じて、コスモポリタンな魅力をお伝えします。

宮崎 賀乃子 Kanoko Miyazaki *Cembalo*

東京藝術大学音楽学部器楽科古楽チェンバロ専攻卒業後、ケルン音楽大学大学院にてチェンバロ専攻修了。平成22年度文化庁新進芸術家海外研修派遣員。在独中にアンサンブルやソロでヨーロッパ各地の音楽祭に多数参加。東京藝術大学教育研究助手（古楽）を経て、同大学大学院博士後期課程に進学。フローベルガーの「組曲」を中心とした17世紀鍵盤音楽について研究し、博士号（音楽）を取得。併せて第2回台東区長賞を受賞。チェンバロを辰巳美納子、鈴木雅明、大塚直哉、シェティル・ハウグサンの各氏に師事。また、室内楽をコンラート・ユングヘーネル氏に師事。日本チェンバロ協会所属。国立音楽大学非常勤講師。

徳田 佑子 Yuko Tokuda *Orgel*

国立音楽大学音楽学部音楽学学科卒業。東京藝術大学大学院古楽専攻（バロックオルガン）修士課程修了。オルガンを深井李々子、廣野嗣雄、大塚直哉、長谷川美保の各氏に師事。2017年、第33回白川・イタリアオルガンアカデミーでピストイア賞を受賞。ソロおよび古楽アンサンブルの活動を行う傍ら、スウェーデン、オランダ、ドイツ他、各地のバロックオルガンによる講習会で研鑽を積む。これまでにイタリアとドイツでリサイタルを行った。東京藝術大学教育研究助手（古楽）を経て、現在、青山学院大学オルガニストおよび日本バプテスト同盟捜真バプテスト教会オルガニスト。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

～ご来場の際しまして～

お客様に安心してお楽しみ頂くため以下のような感染症予防策を講じます。

- 定期的な換気・お客様入れ替え時の消毒
- 受付でのチケット受け渡しを避け、プログラムはお席へ配布
- 客席どうしの距離をあけ、ゆったりお座りいただくよう設置

ご来場のお客様には以下の事項についてご協力賜りたくお願い申し上げます。

- ①館内でのマスク着用
- ②お出かけ前に検温の上、発熱や風邪等の症状がある場合は来館をお控えください。
- ③終演後のご挨拶・歓談はご遠慮させていただきます。

* 松本記念音楽迎賓館 アクセス *

<東急田園都市線「二子玉川駅」よりバス利用>
東急バス玉31系成城学園前駅行き：「岡本三丁目」下車 徒歩5分
東急バス玉30系玉川病院循環：「民家園」下車 上り坂を徒歩4分

<小田急線「成城学園前駅」よりバス利用>
東急バス玉31系二子玉川駅行き：「岡本三丁目」下車 徒歩5分



～今後の公演予定～
※場所は決まり次第お知らせします

第2回 2022年3月
J.K.ケルル × J.バツヘルベル <南ドイツの鍵盤音楽>

第3回 2022年9月
ムファット父子 <ゲオルクとゴットリーブ 楽器に特化した音楽性>